

鶏卵価格の改定のお知らせ

～種と飼料の自給、NON・GMO運動を進めていくために～

4月1回（14週）から、組合員価格を改定します。

カタログでもご案内の通り、飼料用トウモロコシ価格の高騰が継続しており、他の経費上昇も受けて協議を重ね、生産者が鶏卵生産を持続できる原価を保证するために、価格を見直すこととしました。愛知では4月1回より改定します。

1個当りの組合員価格（税抜）は、10個パックで3.5円、ケース企画は約3.4円のアップです。

見直しの内訳は、約90%が飼料価格上昇に対する原価の保障です。その他は雛代値上がり、生産者の物流経費の保障に当てられます。

飼料用トウモロコシの価格の高騰は、継続する見通しです。利用で生産者と取組みを支えましょう。



	改定前（税込み）	改定後（税込み）
10個パック	263円（284円）	298円（322円）
予約10個パック	258円（279円）	293円（316円）
7kg	2,555円（2,759円）	2,940円（3,175円）
5kg	1,825円（1,971円）	2,100円（2,268円）

提携生産者：美濃愛農産直（岐阜県）のたまご生産のこだわり

純国産鶏種「もみじ」を、開放鶏舎で飼養。

生産者メンバーの国枝農園（池田町）と山田養鶏場（山県市）の2軒の農場は、全て赤い殻の「もみじ」のたまごを生産しています。

今、養鶏は100万羽規模のウィンドレス鶏舎での生産が主流ですが、美濃愛農産直の2軒は各1万羽ほどを、自然の光と風が入る開放鶏舎で育てています。

米育ち・NON-GM 飼料

飼料は、通常は全体の約6割がトウモロコシですが、その約半分を地元、JAいび川産の飼料用米に切り替えた「米育ち」（全体の30%給餌）で、飼料の国産率50%超を実現。トウモロコシは遺伝子組み換えでない（NON-GM）ものを与えています。



▲鶏舎の「もみじ」の様子



▲国枝さんと山田さん

国産鶏種を選ぶ・「種の自給」を大切に！

国内唯一の民間の採卵鶏育種会社、(株)後藤孵卵場（岐阜県各務ヶ原市）

(株)後藤孵卵場では、「姫研究所」（可児市）で遺伝資源となる様々な系統集団を維持し、性質が向上するよう、地道な掛け合わせを行い、日本の風土気候にあった育種改良を重ねています。

育種は、丈夫で品質の良い卵を毎日産み続ける、病気に強く飼いやすい、飼料効率がよく成長が早いなど、養鶏に適した品種づくりです。規模が大きいほど有利なことから、ついに採卵鶏の育種会社は海外では2つの多国籍企業グループだけに。国内の育種会社は後藤孵卵場1社のみで、生産される卵の約96%が、種鶏や原種鶏を輸入に頼る外国産鶏種になっています。

病原性サルモネラ菌は、輸入種鶏の親鶏から雛への垂直感染が汚染ルートとなったと考えられています。後藤孵卵場では検査を徹底して、品種のサルモネラフリーを維持しています。種の自給はこういった面でも大切なのですね。



▲「もみじ」のひよこ

無洗卵の取り扱い・配達後は冷蔵庫に保管してください

配達後の取り扱い

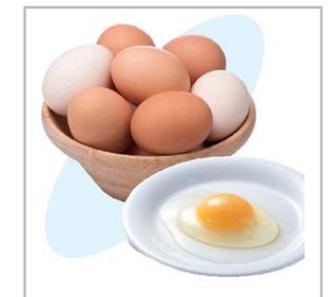
卵殻をごく薄く包むクチクラ層は、細菌の侵入を防ぎ、卵の鮮度を保持していますが、洗卵すると簡単に落ちてしまいます。美濃愛農産直の農場でもサルモネラフリーを維持し、愛知では無洗卵の取組みを継続しています。

届いた卵は別容器に移して冷蔵庫に保管ください。家庭で洗って保管する場合は、温水で洗い、水気を拭き取ってから冷蔵してください。

「賞味期限」は、「生食ができる期間」です

夏場の平均気温を基に、賞味期限14日としています。賞味期限を過ぎたら加熱調理でお使いください。

鶏卵は、保管温度によってサルモネラ菌が増殖できるようになるまでの過去の研究から賞味期限日数が定まっており、28℃で保管し続けた場合は16日になります。配達後は冷蔵保管とし、余裕をもった賞味期限としています。



10個パックの定量は550g以上、必要に応じて520g以上に変更しています。

農場では、雛をいくつかのロットに分け、時期をずらして鶏舎に導入しますが、産み始めの卵は小さい他、季節の気温変化も卵重に影響し（夏の暑さ・冬の寒さ）、小ぶりの卵の割合が増えてしまうことがあります。生活クラブ仕様の生産ですので、このように避けがたい生産量不足の際は定量を520gに変更し、提携生産者の生産を保障しています。